

## 9月9日から10日の豪雨に関する 農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

### 9月9日から10日の大雨による農業被害について

県内では、9月9日(水)から10日(木)までに、南会津町舘岩での降水量が312ミリに達するなど各地で大雨となり、河川のはん濫や土砂崩れが発生し、水田や畑、パイプハウス等への冠水や土砂流入などにより、農作物に大きな被害が発生しました。  
なお、詳細な被害状況は調査中です。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所に決して近づかないでください。

### 1 水 稲

- (1) 浸水・冠水した場合は、少しでも早く穂先や葉先を出すよう早急に排水しましょう。また、刈り取り時期となっているほ場では、早急に排水対策を実施し地耐力の向上を図り、早期に刈り取りを行いましょ。
- (2) 倒伏した場合は速やかに株起こしを実施し、穂発芽させないようにしましょ。なお、株元が損傷している場合には、隣接する株の上に穂をのせる程度としましょ。
- (3) 刈り遅れによる品質低下を防ぐため、ほ場の籾の黄化率(90%程度)を目安として適期刈り取りに努めましょ。
- (4) 浸水・冠水、土砂流入等のほ場では、刈り取り作業前にほ場内を点検し、流木や石等の異物を取り除きましょ。
- (5) 倒伏や冠水被害の程度により、刈り分けを実施しましょ。また、ほ場内の土砂流入や崩落箇所へは、危険ですので決して近づかないようにしましょ。
- (6) 乾燥・調製は丁寧に行い、特に品質を確保するために色彩選別機を積極的に活用しましょ。

### 2 大 豆

- (1) 表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょ。
- (2) 莢が損傷を受けた場合は、降雨により紫斑病や腐敗粒の発生が多くなります。莢に損傷が多い場合は、薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょ。

### 3 そ ば

- (1) 地表面に滞水がある場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょ。
- (2) 倒伏したところをコンバインで刈り取る場合は、刈り幅を狭め、刈り取り部を下げて追い刈り又は横刈りで刈り取ります。刈取部に泥が入らないよう注意しましょ。

### 4 野菜・花き

- (1) 共 通

- ア 停滞水は、明きよなどで速やかに排水しましょう。
- イ 倒伏したものは、茎の曲がりを防ぐため速やかに引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行います。
- ウ 施設内の湿度は、長時間締め切っていたことにより高まっていることから、天候が回復次第、換気に努めましょう。
- エ マルチを行っている畦が冠水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを一時的にはいで畦の乾燥させましょう。
- オ 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行います。

## (2) 野菜

- ア 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の働きを回復させましょう。
- イ 果菜類では、損傷を受けた果実は早急に摘果し、着果負担を減らし草勢回復を図りましょう。
- ウ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、茎葉に付着した砂泥は水をかけて洗い流し、直ちに品目ごとの防除基準に従い適切な薬剤散布を行います。
- エ 大雨や冠水により土壌養分が流亡しているため、速効性の肥料を追肥します。草勢回復を図るためには、液肥のかん注や酸素供給剤の施用を行います。
- オ 収穫した野菜は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。
- カ トマトについては、草勢維持のため液肥や酸素供給剤の施用を行い、損傷を受けた果実や茎葉は早急に摘果や整理をしましょう。また、根が傷み萎凋が見られるところでは、寒冷紗等で遮光して萎凋を軽減しましょう。  
また、冠水したほ場では、疫病や軟腐病、灰色かび病が発生しやすくなりますので、発生に注意し薬剤散布を行います。灰色かび病は、花卉や罹病した葉・果実の除去を行い防除しましょう。
- キ ネギ、ニラについては、倒伏株は、できるだけ早く起こすとともに、冠水したほ場においては薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

## (3) 花き

- ア キクやリンドウなどの露地花きは、風雨による損傷に加え湿度が高くなっていることから、病害が発生しやすくなっているため速やかに適切な薬剤散布を行います。また、草勢回復のために液肥の葉面散布を行います。
- イ 収穫した切り花は傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、被害品は出荷しないようにしましょう。

## 5 果樹

- (1) 停滞水している園では、明きよなどにより速やかに排水対策を講じましょう。
- (2) 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- (3) 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に薬剤散布を実施しましょう。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施します。
- (4) 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。

## 6 畜産・飼料作物

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った

後、施設内の乾燥に努めましょう。

- (2) 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- (3) 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- (4) 収穫期にある飼料用イネや飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。

調製に当たっては、水分調整の実施や、土砂等が混入しないよう収穫作業を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>